

平成二十二年第十八回

荒川区教育委員会定例会

平成二十二年九月十七日
於）荒川区役所庁議室

荒川区教育委員会

平成二十二年荒川区教育委員会第十八回定例会

一 日 時 平成二十二年九月十七日 午後一時三十分

二 場 所 庁議室

三 出席委員 委員長職務代理者 高野照夫

委員 小林敦子

委員 青山侷

四 出席職員 教育総務部長 新井基司

教育施設課長 入野隆二

学務課長 樋口隆之

社会教育課長 三枝直樹

社会体育課長 佐藤泰祥

指導室長 鈴木清文

南千住図書館長 東山忠史

五

案
件

(一) 報告事項

ア 第三回定例会について

イ 荒川コミュニティカレッジの開校について

ウ (仮称) 汐入おもちゃ図書館子育て交流サロンの開設及び汐入図書サービス

エ ステーションの拡張について

エ 国・都等の表彰等における区民の受賞について

(二) その他

書 書 書
記 記 記

湯 浅 大
田 沼 谷
道 佳
徳 子 実

委員長

ただいまから、荒川区教育委員会第十八回定例会を開催いたします。

出席委員数のご報告を申し上げます。五名出席でございます。

会議録の署名委員は、高田委員及び青山委員にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

教育長

本日の審議、よろしくお願いいたします。

委員長

よろしくお願いいたします。

本日の議事日程に従いましてお進めしますが、報告事項が四件ございます。きょうは、説明者の都合で、既に配付してございます議事日程につきまして多少変更させていただきました。よろしく協力をお願いいたします。

それでは、初めに、第三回定例会についてご報告をお願いいたします。

教育部長

お手元の「平成二十二年第三回定例会一般質問答弁要旨」をごらんいただきたいと思います。今回は、第三回定例会、五人の議員の方々が一般質問されました、そのうち、自民党・並木一元議員、共産党・安部議員、正論の会・浅川議員、それから、自民党に戻りまして茂木議員、四人の方からのご質問ございました。

まず、自民党・並木議員の一般質問でございます。今後の荒川区の教育の取り組みについて、一つ目が、学校パワーアップ事業の評価と今後の方向性についてでございます。

質問といたしましては、平成二十二年度は学校パワーアップ事業実施の三年目に当たり、そこでこれまでの学校パワーアップ事業の評価を伺うとともに、これからの方向性について伺うというものでございます。

答弁といたしましては、学校パワーアップ事業は、「荒川区学校教育ビジョン」による学校教育の推進に向けて校長の予算執行上の決裁権限を大幅に拡大し、各学校の教育活動を充実させるため、平成二十年度から三年間にわたり三つの取り組みを行うものであります。

一つは、「学力向上マニフェスト」であり、各学校が成果目標を一斉に公開することによりまして、各校の指導方針をより一層明確化し、その成果を公表するものであります。具体的な取り組みといたしましては、教員の指導力向上のために講師を招聘した校内研修会の開催や、外部人材を活用した補充学習、放課後学習の実施、情報機器を活用した授業改善などにより、各学校がマニフェストとして掲げた目標がおおむね達成されるなど、成果が具体的にあらわれているものであります。

二つ目は、「創造力あふれる教育の推進」であり、子どもたちが自由に造形活動ができるように工夫にした積み木広場の整備や、夏季休業中における大自然の中での豊かな体験活動の実施など、各学校が創意工夫を凝らした教育活動を行うことにより、子どもたちの感性や創造力を培う取り組みを行っているものでございます。

三つ目といたしましては、「未来を拓く子どもの育成」では、部活動の講師補助費やマーチングバンドの遠征費用、読書活動の一層の推進を図るための備品の購入、ホタルの幼虫を飼育し、環境や命の尊さを学ぶ取り組みなどの体験学習を通して、子どもの夢を育てる教育活動が実践されているものでございます。

教育委員会といたしました。校長の学校経営の方針や組織運営をより戦略的に生かすことができる本事業の実施により、特色ある学校づくりが進み、学校の活性化と教育内容の充実等を図ることができたと評価をしているところでございます。今年度は、次期の三年間を見据えて、これまでの成果と課題を踏まえ、児童・生徒の学力を大きく向上させている実践校の事例を活用するなど、本制度のさらなる改善、充実に取り組んでいきたいと考えておりますとお答えしたものでございます。

続きまして、並木一元議員の二つ目の質問でございます。学力調査に対する荒川区の考え方と今後の展開についてでございます。内容といたしましては、学力調査について、本年度の国の調査に対する区の対応と、今後の区の学力調査についての見解を問うというものでございます。

答弁といたしました。は、すべての子どもたちに豊かな学力を確実に身につけさせていくことは学校教育の責務であり、それを実現させていくための指導方法の工夫・改善、その指針となる学力調査の実施は極めて重要であると考えております。

まず、本年度の国の学力調査に対する本区の対応についてでございますが、ご指摘のように、約三分割の抽出調査となり、本区では中学校の四校のみが対象となったものでございます。しかしながら、校長会や保護者等から、昨年度と同じく対象学年の悉皆による調査実施の希望が強く出されたものでございます。そこで、全校が対象学年すべての児童・生徒の学力の実態を把握し、指導に生かすことができるよう、区独自で実施することといたしましたところでございます。現在、各学校が結果の分析を開始しているところでございます。

次に、今後の荒川区の学力調査についてでございますが、本区では、文部科学省や東京都教育委員会に先駆けまして、平成十四年度より区独自の学力向上のための調査を実施してきたもので

ございます。この調査は、基礎・基本の習得を中心に、本区の児童・生徒の学力の定着の状況を把握し、児童・生徒一人一人に応じたきめ細かい指導に生かそうとするものでございます。これまでの学力調査の各学校の取り組みにより、基礎・基本に関する内容については、本区の児童・生徒の学力水準を把握することができ、授業改善の方向性が明らかになってきているものと考えているところでございます。

一方、現在、国や都では新しい学習指導要領に基づき、各教科等において学んだ基礎・基本となる知識を実生活において「活用する力」がどの程度身についているかという視点に立った調査を実施することとしています。このような「活用する力」は、国際的に行われている学力調査においても問われる能力であり、国際社会を生きる日本人として身につけていくべき大切な力であると考えております。

そこで、教育委員会といたしましては、平成二十二年度以降、区独自の学力調査については、国や都と同様に、国語・算数・数学に関する「活用する力」に重点を置いた調査を実施することにより、指導上の課題を明らかにするとともに、その結果を教科指導に反映させ、本区の未来を担う児童・生徒に確かな学力を育成していきたいと考えていると答弁いたしました。

次に、共産党の安部キヨ子議員でございます。子ども一人一人に行き届いた教育実現のために、区として少人数数学級を推進する姿勢に立つこと、また、計画に沿ったクラス予測数を示すこと、また、学校選択制は矛盾すると思うがその認識を問うというものでございます。子どもたち一人一人に行き届いた教育実現のために、区として少人数数学級を推進する姿勢に立つこと、計画に沿ったクラス予測数を示すこと、学校選択制は矛盾すると思うが、その認識を問うというものでございます。

非常に難しい答弁の時点でございまして、現時点では、国の予算編成や法改正の動向が流動的でありますが、区としては、国や東京都の動向も見据えながら、歩調を合わせて引き続き対応を図っていく考えでございます。国の少人数数学級編制の方針が正式に決定した際には、学級数の予測や対応方策等について区議会にもご報告させていただきたく所存です。また、学校選択制との関係につきましては、これまでと同様、保護者の要望も踏まえまして適切に実施していくというところで答弁をいたしました。内容としてはなかなか難しいので、初めに準備してまいりますと、国の方針変更した場合に……。そうしますと、共産党としては「そのままやれ」というような要望が出てきてしまっていますので、なかなか対応に苦慮した内容でございます。

順番で説明させていただきます。

浅川議員から、小惑星探査機「はやぶさ」のカプセル展示を誘致し講演会を開催し、宇宙の不思議な構成や物理化学の可能性を子どもたちを始め広く区民に知らしめるべきと考えるがどうか。展示や講演会を日暮里駅直近で開催し、多くの鉄道利用者、成田空港利用者も参加可能とし、日暮里駅周辺のポテンシャル向上を図るべきと考えるがどうかというところでございます。

答弁といたしましては、「はやぶさ」による小惑星探査機の成果は全世界から高く評価されます。価値ある成果であると考えているが、子どもたちを初めとして広く区民に展示するためには、厳しい展示の条件を満たす必要があるが、残念ながら開催は大変難しいと考えております。これまで本区では、子どもたちに夢を与える活動を支援してまいりました。また、今回の小惑星探査機「はやぶさ」の成果については、八月十四日に開催いたしました区民プラネタリウム事業におきまして、スライド等の映像も活用しながら子どもたちに紹介をしております。区内の子どもたちへは、荒川区教育委員会といたしましては今後も引き続き、学校における理科教育

やものづくり教育等を充実させていく考えでございますと、まだ若干尾を引いている内容でございますが、難しいものということでお答えをいたしましたのでございます。

最後になりますが、自民党の茂木議員から、まず、共産党の安部議員と同じ、少人数学級についてございました。質問は二つでございます。国の少人数学級に向けた取り組みに対して教育委員会の見解を問うというものと、区として来年度に向けて早急に対応すべきこと、また、二十四年度以降を見据えて対応すべきことは何かというものでございます。

真ん中ほどから参ります。文部科学省は、本年八月、来年度から八年間の計画により一学級当たりの学級人数の上限を引き下げる案を示しているものでございます。今回の計画案が実現いたしますと、よりきめ細やかな指導が可能になることから、これまで行ってきた少人数指導とあわせて、児童・生徒の学力の向上や生活指導の充実に寄与するものと考えているところでございます。本年八月の計画案の発表から、実施時期が来年四月という非常に短い準備期間での対応になるので、今後の国の予算編成や法改正の動向をしっかりと見据えて、遺漏のないよう対応を図っていく考えであります。また、平成二十四年度以降を見据えた対応といたしましては、学校選択制を堅持しつつ、学級増を想定した普通教室の確保など、必要に応じて適切に対応を図っていく考えでございますというところで答弁をさせていただいたものでございます。

二つ目でございます。教員の育成・研修についてということ、三十五人学級実施に伴う新規採用職員の増大に対応した育成・研修について問うというものでございます。

五行目ぐらいからでございます。教員に対する指導力の向上につきましては、喫緊の課題としてとらえ、その対策を実施しているところでございます。採用一年目の教員を対象とした研修については、定期的、個別に授業の実践指導を行うなど、新規採用職員の育成に力を入れておりま

す。さらに二年・三年・四年目の教員を対象として、若手教員を組織的・系統的に育成しているものでございます。校内における研修とともに、内容の充実を図り、組織的な人材の育成に努めてまいります。今後についても、三十五人学級の実施に伴う新規採用教員の増加を見通し、研修成果の評価を適切に行いながら、教員の育成に引き続き力を入れていく考えでございますという答弁でございます。

長くなりましたが、以上でございます。

委員長

ありがとうございます。

以上、丁寧に答弁の要旨の説明をいただきました。

一つは、並木議員からパワーアップについて、それから、学力調査に関する荒川区の考え方。これについてご質問ございますか。

(委員一同 ―― ―― 質疑なし)

委員長

なければ、安部キヨ子議員の、子ども一人一人に行き届いた教育実現のための区の方針について、これもよろしいですか。

(委員一同 ―― ―― 質疑なし)

委員長

それから、浅川議員の小惑星のことについては、実施は難しいということであります。

教育長

ちよつとコメントを。

教育部長

そうですね。ある意味では大変いい話なので、積算をしたのですね。日暮里駅近くというところ、会場的にはラングウッドで、入野さんが施設の利用可能日数の把握をしたところ、連続してこれるのが二日程度のため、仕込みが一日かかると想定されますので実質一日の展示しかできない。保険や展示の舞台とか、二十四時間警備をつけなければいけないとか、お金をとってはいけなとか、JAXAの非常に厳しい条件があります。二日間ラングウッドを押さえて、二十四時間の周辺警備、温度も二十八度にする等万全を期しながらやっていきますと、約二千万円ぐらいかかってしまうかなというところで難しいと判断したものです。先ほど「尾を引いている」と申し上げましたのは、代わりにJAXAの映像等を借りて、広く区民に「はやぶさ」の成果を知らせるような講演会と映像をもらいたくような会をやってはどうかというところで、いつごろできるかというところを検討し、今ご理解いただいているところでございます。そんな状況でございます。

委員長

ありがとうございます。

よろしいですか。

(委員一同 ―――― 質疑なし)

委員長

茂木議員からは、教育について、今、私たち教育委員会のホットな話題について、少人数学級と教員の育成・研修についての話がありましたけれども、これについてありますか。

教育長

荒川区から新採の教員が他区に異動で行った場合、「本当によくやってくれる」という形で、他の教育長から、全員ではありませんけれども、多くの教師が他の市とか区で活躍しているという声を伺います。荒川区の場合は相当厳しく、清里のワールドスクールと一緒にやりとか、そういう中で、指導力に課題がある若い教員が、夏休み、ワールドスクールに参加して、成長し、自信をつけ、九月から元気にやっているという状況もありますので、いろいろな面で、新採研修については、また一年目、二年目研修についても充実したいと思っています。

委員長

教員と生徒が一体となっているということですね。

教育長

はい。

委員長

ありがとうございます。

小林委員

荒川区の学校パワーアップ事業について発言をさせていただいてもよろしいでしょうか。

委員長

どうぞ。

小林委員

この荒川の学校パワーアップ事業ですが、非常に評価されているということでお話をさせていただきたいのですが、北京師範大学からことし六月に先生がお見えになりました。昨年もお見えになりました、荒川の学校を視察させていただき、教育長、鈴木室長に大変にお世話になりました。

た。その先生はユニセフが中国の僻地で教育支援をやっているプロジェクトの専門家です。それで雲南省や青海省などの僻地の先生方を集めてかなり大規模な教員研修をことし開催したそうです。そのときに、プロジェクトの中の一つの事業として、子どもを愛する教育プロジェクトというのがありました。その子どもを愛する教育プロジェクトの具体的な例として荒川について紹介したということです。荒川のパワーアップ事業であるとか、子ども一人一人非常に大切にしている教育の姿勢といったことを学ぼうということで紹介したそうです。パワーアップ事業にしても、学校の自発性を重視しながら創造的な授業を展開しておりますし、日本だけではなくて、国際的にも学校の現場に元気を与えているという、そういうすばらしい事業だと思っております。

委員長

ありがとうございます。

教育長

資料があつたら……。インターネットで調べたらわかりますか。

小林委員

インターネットでは出てこないかもしれませんね。

高田委員

日本国内よりも中国に広まったりしてね。

小林委員

そうですね。

委員長

よろしゅうございますか。

では、冒頭お話ししたように、次を後にさせていただきまして、「(仮称) 汐入おもちゃ図書館 子育て交流サロンの開設及び汐入図書サービスステーションの拡張について」に移ります。ご説明をお願いいたします。

南千住図書館長

それでは、「(仮称) 汐入おもちゃ図書館子育て交流サロンの開設及び汐入図書サービスステーションの拡張について」、ご説明いたします。

骨子の欄でございます。子育て家庭が増加しています汐入地区におきまして、地域の子育て支援機能の充実を図るために、べるぽーと汐入東館内に新たにおもちゃ図書館子育て交流サロンを開設するとともに、現在あります汐入図書サービスステーションを拡張し、両者が連携して区民サービスの向上を図るものでございます。

続きまして、概要の一番目、「設置場所等」でございます。恐れ入りますが、添付いたしました二枚目の図面とあわせてごらんになっていただければと思います。

二枚目の図面、上段のほうが位置図でございます。住所は荒川区南千住八丁目十二番五号、べるぽーと汐入東館の一階でございます。図面の下のほうがレイアウト図でございますが、今回設置と拡張します面積は約五十七平方メートルでございます。下の図面言いますと、大体真ん中から線を引いて上のほうが汐入図書サービスステーションの拡張部分、下のほうがおもちゃ図書館子育て交流サロンの配置で今のところは検討しているところでございます。

三枚目におつけしました図面は、位置関係がわかりづらいと思ひまして、建築図面で恐縮でございますが、おつけいたしました。赤い楕円で囲ってありますのが、今、私どもで運営しています汐入図書サービスステーションでございます。四角く囲ってあるところが今回拡張する部分

で、管理通路を挟んで斜め向かいというような位置関係にございます。

それでは、一枚目の説明資料にお戻りいただきたく思います。二番目、「(仮称) 汐入おもちゃ図書館子育て交流サロン」でございます。事業内容としましては、子育て親子の交流の場の提供と交流の促進、子育てに関する相談・援助の実施、子育て関連情報の提供、子育て支援に関する講習会等の実施、さまざまな玩具による遊びの提供でございます。運営につきましては、「運営方法」にありますとおり、荒川区社会福祉協議会がこのサロンを運営して、荒川区としては開設準備経費及び運営経費を助成するといったところでございます。区の所管につきましては、子育て支援部が助成金を支出するといった仕組みになってございます。

「経費及び財源」でございます。経費につきましては、開設準備経費が四百二十万円、運営経費については二百四十七万円となっております。これにつきましては財源があります。開設準備経費には四百二十万円すべてに安心子ども基金から財源が補てんされます。運営経費につきましては、約二分の一の百七万三千円が次世代育成支援対策交付金で財源として充当されるものでございます。

続きまして、三番目、私ども南千住図書館で運営します汐入図書サービスステーションの拡張に関する部分でございます。(一)、今回拡張しまして、一つ大きなところは、児童図書の拡充でございます。現行三千四百冊あるところを四千二百冊程度増冊して七千六百冊としたいと考えてございます。説明の欄にあります、児童図書を大幅に充実しまして、現行の図書サービスステーション内にある児童図書を今回拡張するスペースに移します。なお、児童図書の選定については、柳田邦男氏に依頼する予定であります。

(二)「一般図書の充実」でございます。現行四千百冊を九百冊程度増冊して五千冊にしたいと

考えてございます。現行の汐入サービスステーション内においては、先ほど(一)で申し上げた児童図書のを拡張スペースに移転しますので、その空いたスペースを活用して一般図書を充実したいと考えてございます。また、貸し出しのカウンター及び予約図書を確保しておく置き棚もあわせて拡張したいと考えてございます。

(三)「経費」でございます。サービスステーションの開設準備経費としましては一千六百六十九万円、運営経費については三百六十一万円程度を予定してございます。

裏面でございますが、四番目、「子育て交流サロンと図書サービスステーションの連携」でございます。今回はこの五十七平米の中でサロンと図書サービスステーションが連携して事業を行うところが特色でございます。その内容としましては、(一)「児童図書と玩具の両方が借りられるスペースとする」、(二)「親子で本を読んだり遊んだりできるスペースとする」、(三)「図書と玩具を使った多彩な子育て交流事業を展開する」といったところで、双方が連携して新たな子育てサービスを展開してまいりたいと考えてございます。

五番目の「スケジュール(予定)」でございますが、今月の下旬にこの床の部分の賃貸借契約を締結しまして、十月以降、内装改修工事に入りたいと思います。十一月下旬には開設したいと予定しているところでございます。

説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

委員長

ご説明ありがとうございます。

どなたかご意見、ご質問ございませんでしょうか。

小林委員

たまたま汐入地区に用事がありまして、べるぼーとへ買い物に行きましたところ、この汐入図書サービスステーションがあり、小学生がたくさんいました。こんなに多くいるのを見て、それだけ需要があると思います。その意味で、拡張していただけるといのはとてもありがたいことだと思っております。よろしくお願いいたします。

委員長

ありがとうございます。

高田委員

この部分はもとは何だったんだろう。

教育長

薬屋さんですよね。

南千住図書館長

薬屋さんで、写真屋さんです。写真を現像するところだったと聞いています。

教育長

撤退してしまっただ。

高田委員

撤退したの？ 良い場所がみつかりよかったね。

小林委員

あそこは非常にいい場所ですね。

高田委員

つながっているからね。

教育長

これに伴いまして、区議会の文教委員会では、「なぜ汐入ばかりか」というのが出ましたよね。東尾久地区にも図書サービスステーションが欲しいという声があり、今一生懸命考えています。委員長

わかりました。

小林委員

質問なのですけれども、「子育て交流サロンと図書サービスステーションの連携」ということで、「図書と玩具を使った多彩な子育て交流事業を展開する」とあります。この地域はいろいろな住民の方がいらっしゃる地域です。そういった方たちの協力を求めるという考えもあるのでしょうか。

南千住図書館長

子育て交流サロンは社会福祉協議会が運営します。その交流サロンの設置義務としては専属の職員二名となっておりまして、もともと荒川区社会福祉協議会はボランティアの方と連携した事業展開も行っております。私どもとしても、図書館には読み聞かせのボランティアの方が二団体程度いらっしゃるので、できればこういった場所で、ちよつとにぎやかになってしまいかもしれないのですけれども、ボランティアの方に読み聞かせをしてもらうだとかという連携もできるかなと考えています。

小林委員

そうですね。

委員長

ありがとうございました。

ほかにございませんか。

(委員一同 ―――― 質疑なし)

委員長

では、次に進みます。

「荒川コミュニティカレッジの開講について」、ご説明をお願いいたします。

教育総務課長

社会教育課長が今出ておりますので、かわりまして担当の係長からご説明を差し上げたいと思います。

委員長

お願いいたします。

社会教育課地域学習支援係長

地域学習支援係長の萩原と申します。よろしくお願いいたします。

お手元の資料でご説明いたします。

荒川コミュニティカレッジでございますが、二年間の履修期間で、ことしの十月に開講いたします。現在、開講に向けまして受講生の方を募集しているのですが、募集状況はその表にございます。三コース、募集しております。荒川入門コースが、お昼前に先ほど一名お申し込みがあります。女性の方が十七人になり定員の三十人に達しました。地域活動を既に始めている方もっとパワーアップしていただくパワーアップAコースを平日の午後に開講いたします。こちらが二十四名のお申し込みになります。次のパワーアップBコースも、地域活動を始めたいという

方と、既に初めている方を対象に、原則として夜間に行うコースですが、こちらにも二十八人の方が申し込まれております。まだ定員に達しておりませんので、引き続き募集を受け付けている状況です。

こちらの募集の状況ですが、申し込みの方の年齢層としましては、昼間のコースが二コースあること等もありまして、八十二人中、六十代の方が四八%、団塊の世代の方が半数弱いらっしゃいました。逆に夜のコースになりますと、やはり昼間はお勤めがあるということと、二十代から七十代という幅広い年齢の方で、中でも二十代から四十代の方が五七%と半数を超えて、開催時間によって参加される方の層というのはかなり違っていらっしゃいます。

申し込みに当たりまして、応募動機を書いていただくという方式をとりました。どのような思いで参加されているかというのを幾つかご紹介させていただきたいのですけれども、入門コースですと、こちらは六十代の男性ですが、「退職して地域デビューということがいろいろ言われるけれども、自分はまちのことは余り知らなかったから、地域デビューすることにとてもためらいがあった。ですから、荒川のまちをもっと知ってから、地域に出たい」と。また、「自分が本当に何をやりたいのか、自分をもう一回客観的に見て活動に入りたい」という動機の方がいらっしゃいました。

また、地域活動を始めている方のAコースですけれども、こちらにも六十代の女性になりますが、数十年ボランティア活動をしてきたが、活動のさまざまな場面でこれでいいのだろうかという疑問がよく生じる。活動内容や活動方法をもう一回自分なりに考えてみたい」という方。また、こちらは五十代の男性で、町会の役員を十四年やってきた。ただ、町会、自治会がかなり高齢化しているので、今後のことをもう少しきちんと考えていきたいという方がいらっしゃいました。

夜間のコースですと、こちらは四十代の女性ですが、「引越す前は荒川には余りいい印象を持っていたなかった。よく知らなかった。引越してきましたら、とてもいいところだというのがわかった。そういうよさをもっといろいろなところに発信していきたい。また、そうはいつても、商店街が寂しくなってきた部分もあるので商店街の活性化も考えていきたい」と。こちらは四十代の男性ですが、「数年前までは会社勤めで、会社と自宅の往復だけだった。それが自営業に転職したので、これを機会に、生まれ育った荒川区や地域のことを考えて、自分が何をできるかというのを考えていきたい」と。

いろいろな動機を書いていただきました。

小林委員

すばらしいですね。

社会教育課地域学習支援係長

ちゃんとしなければいけないなど、皆さんの思いが詰まっているのを感じております。現在、まだ八十二人ですけれども、ぎりぎりまで申し込みを受け付けまして、入学式を十月二日土曜日の午後に行います。委員の皆様もぜひご出席をお願いしたいと思います。そして、青山先生にご講演をいただく予定になっておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上です。

委員長

ありがとうございました。

小林委員

この校歌についても紹介してください。

社会教育課地域学習支援係長

もしよろしければ、校歌も聞いていただければと思います。こちらは、「荒川くそして未来へ」を作詞されました産業経済部長の高野部長に作詞をお願いしました。

青山委員

あれもいい歌ですよね。

社会教育課地域学習支援係長

はい。作曲は、アンサンブル荒川と申しまして、区内で音楽活動をしているオーケストラ、ボランティア活動もかなりやっていらっしやるところの指揮者の方が「やりましょう」と快く引き受けていただきました。みんなに歌いやすい曲をとお願いいたしました。全部で三分三十秒ぐらいです。

委員長

聴かせていただけるのですか。

教育総務課長

はい。

社会教育課地域学習支援係長

最初が前奏になっています。

社会教育課地域学習支援係長

(CD視聴)

入学式にお披露目ということ。歌う方も一緒に来ていただいて、アンサンブル荒川の皆さんに演奏していただく予定になっています。

小林委員

そうですね。いいですね。

教育長

この曲は私たちに合うね。

小林委員

格調高いですね。

委員長

よろしいですか。

ありがとうございます。

青山委員

これは相当密度の高いカリキュラムなんですか。

社会教育課地域学習支援係長

二年の間に、一年目は基礎づくりということ、コミュニケーション力をつけていただいたり、地域活動というのは何なのかとか、荒川区のことを知っていたらこうと。二年生になってから、自分がやりたい分野を、コースに分かれて、そこで初めて専門的なことを勉強しようという形です。

青山委員

毎週？

社会教育課地域学習支援係長

月二回程度ですね。

青山委員

カリキュラムを見ると、すごいですよ。項目もびっしり。それで、よく八十二人も応募があったなど。二年間大丈夫なのかなと。

それで、これは教育委員会の所管なんですよ。――そうですね。

教育総務課長

そうですね。

青山委員

これは教育委員会の事業なのです。だから生涯教育、生涯学習なんです。来年また一年生が入ってくるのでしたっけ？

社会教育課地域学習支援係長

はい。

青山委員

二年たたないうちに？

社会教育課地域学習支援係長

その予定であります。

青山委員

つまり、今、八十二人が始めるでしょう。来年になると百六十人の学校になっているのです。そうですね。

社会教育課地域学習支援係長

はい。百八十人。

青山委員

この人達が卒業するとまた入ってくるのです。これを蓄積していくと、すごいパワーになるのです。

委員長

すごい財産になりますね。

青山委員

教育委員会にとってはこれは見過ごせない財産なので。本当にやっていけばですよ。

小林委員

うまく起動に乗るといいですね。

青山委員

普通は、ご祝儀人気で、こういうのが欲しいなと思ったら、アンケートにあっただように、初年度は応募があるのです。二年目、三年目というのは、普通、どんどん減っていくのです。大学の新学部とか新学科もみんなそうではないですか。

委員長

そうですね。

青山委員

新設するとその当初は来るのです。それで、だんだん減っていくのです。問題は、初年度はいいのですけれども、それ以降が大変だそうですね。

委員長

中身をいかに良いものにするかがポイントですね。

教育長

そのためにも、スタッフをいかにそろえるかが大切。

青山委員

あとは、卒業生のケア。結局、二年たつと卒業するでしょう。それを、「はい、さようなら」とやってしまうと、学校自体が続かないです。教育委員会としては、最低、卒業生を組織して、そのフォロー研修みたいなものを。今度はカリキュラムを考えなければいけないです。

委員長

本当にいいご意見ありがとうございます。そうですね。

青山委員

二年たつたらね。この人たちは、単なるカルチャーセンターとしてではなく、荒川という地域で活躍するために入学してくるので、卒業した翌年、あるいはここに来ている間も地域活動してくれるわけです。そこで例えば、現役の人たちに対して、卒業生のその後のコミュニティ活動みたいなものの発表会を年二回ぐらいやってもらうとか、その後何をやっていきますというふうなことの発表会をやってもらう。そういうことを学校として考えていって、卒業生の会というのをきちっと組織してやると、新入学者を連れてきてくれるわけです。むしろ、今からスタートさせて、これが始まったら、この人たちの生徒会をつくって、二年目に応募してくる人たちをそれぞれ引っ張ってきなさいというような会をつくってしまうのです。それがそのままOB会になっていくということをする、芋づる式にいい人を引っ張ってきてくれる。あの人はやる気があるとか、

これ、いいわよとか言って引っ張ってきてくれる。それをやらないと、後の学生を集めるのは大変だと思えます。それから、趣旨からすると、生涯学習だから一生活動してもらおうわけですから、卒業生の会を運営すること自体が一つのコミュニティカレッジの授業だぐらいにとらえて。もちろん、区役所の各部門と協力させればいいと思えますけれども、それをやるかやらないかで……。

実を言うと、大学はみんなこういうことをみんなやっているのです。私のところのガバナンスという大学院も、東山さんはよく知っているけれども、卒業生の会のケアのほうが大変なぐらいなのです。私のところは社会人だからこれと同じで、社会人でOB会を幾つもつくるのです。政治家のOB会とか、公務員のOB会とか、一緒になつたOB会とか一緒につくって、海外のフイールドワークだとか、国内のフイールドワークだとか、「その後のガバナンス」とうちは言っているのですけれども、その後の活動の発表会とかそういうのをやるのです。そういう卒業生がみんな組織されていくと、それがどんどん蓄積されていく。その人たちが新しい入学者を連れてくるのです。公共政策大学院も七年前のがみんなだめになってしまったのですけれども、私のところのガバナンスはなぜ定員割れしないかというところ、結局、卒業生が新入学者を連れてきてくれるのです。議員にしる、公務員にしる。その卒業生は、資格が欲しくて大学に来たわけではないから、修士をとればいいという人たちではないから、現職の社会人だから、卒業後もネットワークを組むというのは逆に魅力になるのですね。こういうのに来るような人たちは、みんな社会活動をしたと思うっているモラルの高い人たちだから、それをするのが喜びで来るわけだから、そういう活動だというふうにこれをすると、このコミュニティカレッジが定着すると思うのです。

委員長

意味は違いますが、ロータリーとかライオンズクラブみたいな。

青山委員

そうです。

委員長

それに通じますよね。

教育長

本当にいい方向性を示していかないとね。それがいずれ社会教育委員とか、青少年委員とか、外部指導員とか、地域のシャッター通り改革委員とかね。

高田委員

以前社会教育でやっていたリーダー研修というような、あれをさらによくしたみたいなの。

青山委員

それを相当みっちりしたカリキュラムに。二年ですものね。

高田委員

前に、リーダー研修みたいなものを随分よくやっていたね。

社会教育課地域学習支援係長

以前は、リーダー研修で、泊まりがけとかというのもありましたが、最近はやっていませんでしたね。

委員長

ボランティア精神の育つ母体になりますね。

青山委員

ええ。そうすると、荒川がさらにいいまちになっていく。荒川というのはそういう地域コミュニ

ニテイが非常にしつかりしているところですから、今のガバナンスとか、地域の協働というのは、発言するだけではなくて自分もやる、協力して働くという覚悟はできているのだと思います。要は、自分たちも地域活動をするという考え方だから。さっきのアンケートだと、コミュニティカレッジに応募した動機というのは、みんな「地域活動をしたい」という考え方だから、それを生かしていくといいと思いますね。

委員長

いいご意見ありがとうございます。本当にすばらしい。ぜひそのように、地域活動をしたい区民の方々にとってのよい育成の場となってほしいですね。

ご意見ありがとうございます。

小林委員

このコミュニティカレッジなのですけれども、特に初めはとても重要で、この一期生はとても重要だと思うのです。期待も非常に高いですよ。それで、講師陣というか、どういった方が具体的に教鞭をとるということになるのですか。

委員長

先生は……。

小林委員

いや、私は力不足です。

社会教育課地域学習支援係長

区に関することは区の職員がやはり一番知っているということ、荒川区の取り組みとか課題は部長たちと、あと職員でフォローしていく。それから専門的な部分につきましては、大学の先

生方。早稲田大学にもお願いをしているところなのですけれども、あと明治大学……。あとは、地域活動を実際にやっている方、かかわっている方でない、内容的にできないなど思っておりますので、そういう事例をたくさん知っている大学の先生、NPOの活動をしている方を中心に選んでいます。

小林委員

わかりました。

委員長

ありがとうございます。

ほかにご意見ございますでしょうか。

(委員一同 ―――― 質疑なし)

委員長

では、次に移らせてください。

「国・都等の表彰等における区民の受賞について」、ご説明をお願いいたします。

学務課長

それでは、国と都、今回東京都になりますけれども、表彰にかけます区民の受賞につきましてご報告をさせていただきます。

表彰の種類でございますが、平成二十二年度東京都功労者表彰でございます。そのうちの福祉・医療・衛生功労部門というところで今回受賞が決定いたしました。表彰者は東京都知事ということで、我々、「都知事表彰」と呼んでいるものでございます。

受賞された方でございますが、日野泰夫先生と申しまして、町屋駅の近くで内科の開業医をさ

れている方でございます。また、第九峡田小学校の学校医、それから、花の木幼稚園の園医をこれまで長く務められておりました、かれこれ二十九年ほど学校医・園医をやっていたというところでございます。今回、その学校医・園医におけます学校保健活動の功績が認められたというところによる表彰でございます。

表彰式につきましては、下に記載してございますように、来月十月一日の金曜日に予定しているところでございます。

ご報告は以上でございます。よろしくお願いいたします。

委員長

ありがとうございます。

ご質問ございますでしょうか。

日野先生は、僕も非常によく知っています。千葉大学出身の、循環器の医師です。お母様が百歳ぐらいじゃなかったかな。女性医師です。

これは、十月一日を過ぎないと「おめでとう」と言えないんですね。

学務課長

いいえ、ご本人にはもう内々でお話が行っていますので。

委員長

わかりました。

教育長

区長さんから連絡が行っているのでしょうか？

学務課長

はい、区長から。

委員長

それでは大丈夫。

教育長

電話していただければ喜びます。

委員長

はあ。

高田委員

ことは、福祉・医療・衛生功労だけで、文化功労はないのですか。

学務課長

文化のほうもたしかあると思いましたが。文化というか、区民生活部のほうでも受賞された方がいるというふうに聞いていますので。

委員長

十月一日は都民の日ですよね。名誉都民に何人か候補が挙がっていましたね。この日、同時にやると……。石原さんがやってくれださるといいな。

では、よろしいですか。

きょうの案件は以上でございます。お手元に教育委員会の日程があります。これについて何かございますでしょうか。

教育総務課長

それでは、日程につきましてご報告させていただきます。

お手元の資料の裏面でございますけれども、十月二日の土曜日にコミュニティカレッジの入学式がございます。先ほど担当の課からご説明を差し上げましたとおりでございます。それから、十一月十三日土曜日に第六瑞光小学校の七十周年の記念行事がございます。本日、お手元に学校長からのご案内状を配付させていただきました。

以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

委員長

ありがとうございます。

ご意見ございませんでしょうか。

(委員一同 ―――― 意見なし)

委員長

今までの協議内容につきまして何かございますでしょうか。

なければ、教育委員会第十八回定例会を閉会いたします。

―――
了―――